

JR東日本労働組合 SENDAI 情報

JR 東日本労働組合
仙台地方本部
発責：執行委員長
編集：情宣部・組織部

第10回中央委員会 全組合員が運動への参加を



東日本ユニオン本部は7月5日「北とびあ」(王子)にて第一〇回中央本部定期大会を開催し、コロナ過でも運動を後退させないことを確認し、2021年度運動方針をはじめとする活動方針を満場一致で採択した

仙台地本から、佐藤委員長、竹田書記長が参加し、組織問題、夏季手当の闘い、一時帰休、出向エルダー職場の問題改善に向けた活動について発言した。また、役員改選があり、岡村副委員長が退任し、新たに角谷新副委員長が就任した。

【運動の基調】

- ① 東日本ユニオンは全組合員が運動に参加することを目指す
- ② 組合員の利益を守るために役員の意識改革
- ③ 会社施策や企業活動に対し、職場からチェック機能を発揮する

<発言要旨>

- ☆今後もコロナ禍の影響を盾にした手当、定昇、人件費削減施策には絶対に応じない交渉を続けて欲しい。特にボーナスは生活給となっている。粘り強い闘いを行っていこう。
- ☆1日あたり200名が本社だけで休業し、それでも会社機能として問題ないのだろうか。一方で、運輸職場を中心に要員が逼迫し、年休が取得できない、仮年申込が入らない状況が続いている。そんな状況をしり目に、本社は200名もの要員を休業にさせることに疑問を感じる。
- ☆。政府が掲げた「同一労働同一賃金」は一向に進んでいない。地道に取り組みを行って頂きたい。出向エルダー職場の課題について調査を行っている。